

平成 22 年度第 3 四半期（平成 22 年 10～12 月期） 長岡市景況調査報告書（概要版）

平成 23 年 1 月

長 岡 市
長岡商工会議所
(調査機関) ㈱ホクギン経済研究所

I. 調査の概要

1. 調査の目的

長岡市と長岡商工会議所が共同で、四半期ごとの長岡市内事業所の景気動向を調査することにより、現在の景況を把握し今後の施策に反映させるための基礎資料とする。

2. 調査の方法

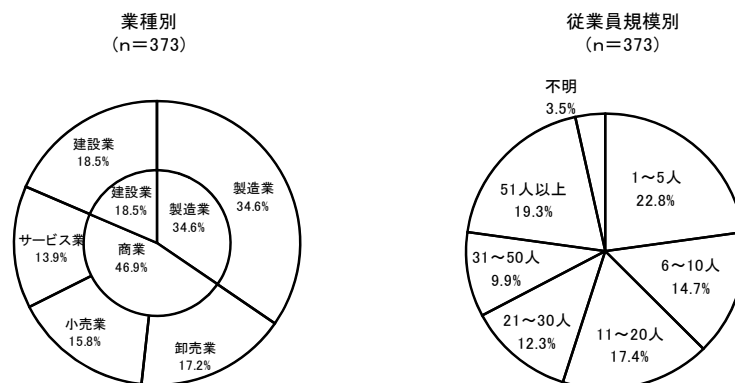
- (1) 期 間 平成 22 年 12 月 24 日（金）～平成 23 年 1 月 18 日（火）
- (2) 方 法 郵送による記名アンケート方式
- (3) 対象先数 1,477 事業所
- (4) 回答先数 有効回答 373 事業所
- (5) 有効回収率 25.3% (373/1,477)

3. 回収状況

回収状況は下記の通り。

	調査対象企業数 ()は構成比率(%)	回答企業数 ()は構成比率(%)	回収率(%)
製 造 業	514 (34.8)	129 (34.6)	25.1
卸 売 業	235 (15.9)	64 (17.2)	27.2
小 売 業	248 (16.8)	59 (15.8)	23.8
サービス業	251 (17.0)	52 (13.9)	20.7
建 設 業	229 (15.5)	69 (18.5)	30.1
合 計	1,477	373	25.3

<回答企業の内訳>



II. 調査結果の概要

<景気動向に関する調査>

(1) 業況判断の動向

- ・平成22年10～12月期の業況判断D I（前年同期比「好転」の事業所割合－「悪化」の事業所割合）は△12.5。前期比+9.5ポイントの改善となった。
- ・平成23年1～3月期は△25.0と、業況は再び悪化する見通し。
- ・業種別に業況判断D Iをみると、製造業は、平成22年10～12月期が16.4(前期比+8.9ポイント)と3期連続でプラスとなった。平成23年1～3月期は1.6(前期比△14.8ポイント)と、悪化するもののプラスを維持する見通し。
- ・商業（卸売業、小売業、サービス業の合計）は、平成22年10～12月期が△29.3(前期比+7.3ポイント)とやや改善した。平成23年1～3月期は△38.9(前期比△9.6ポイント)と、業況は再び悪化する見通し。
- ・建設業は、平成22年10～12月期が△23.5(前期比+16.2ポイント)と改善した。しかし、平成23年1～3月期は△40.3(前期比△16.8ポイント)と、悪化の見通し。

【現況】(平成22年10～12月期)

業種	好転 (%)	不変 (%)	悪化 (%)	好転－悪化 (DI)	前回調査 (平成22年 7～9月期)
製造業	40.6 (+1.6)	35.2 (+5.7)	24.2 (△7.3)	16.4 (+8.9)	7.5
商業	17.8 (+1.0)	35.1 (+5.3)	47.1 (△6.3)	△29.3 (+7.3)	△36.6
建設業	19.1 (+5.4)	38.2 (+5.3)	42.6 (△10.8)	△23.5 (+16.2)	△39.7
全体	25.9 (+2.0)	35.7 (+5.5)	38.4 (△7.5)	△12.5 (+9.5)	△22.0

※()内の数字は前回調査「平成22年7～9期の現況」からの増減

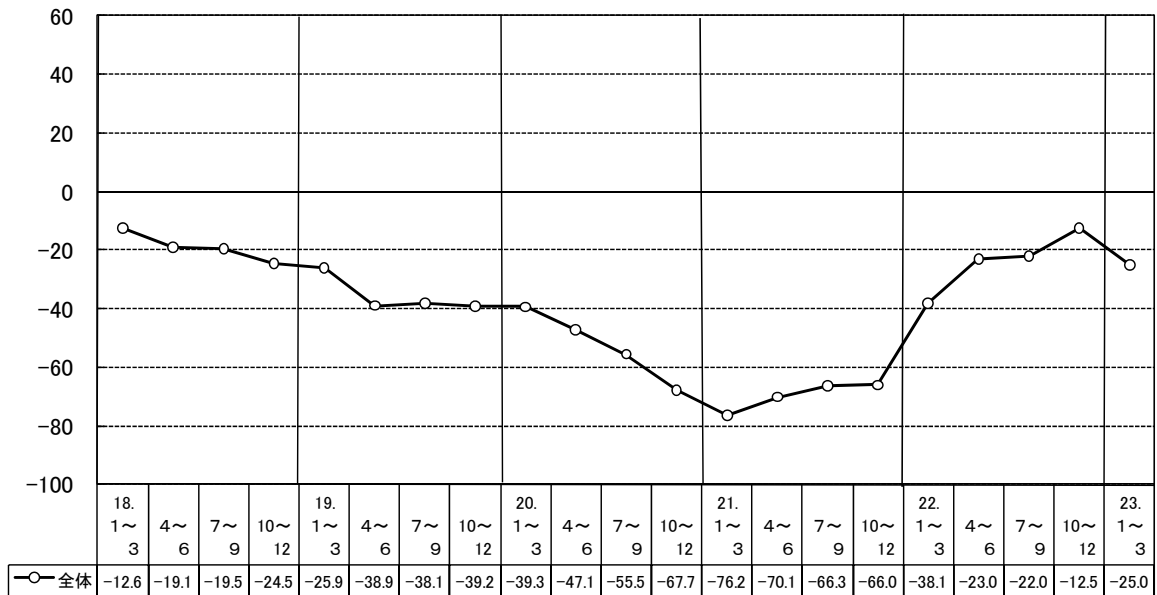
【見通し】(平成23年1～3月期)

業種	好転 (%)	不変 (%)	悪化 (%)	好転－悪化 (DI)
製造業	31.0 (△9.6)	39.7 (+4.5)	29.4 (+5.2)	1.6 (△14.8)
商業	7.6 (△10.2)	45.9 (+10.8)	46.5 (△0.6)	△38.9 (△9.6)
建設業	10.4 (△8.7)	38.8 (+0.6)	50.7 (+8.1)	△40.3 (△16.8)
全体	16.3 (△9.6)	42.4 (+6.7)	41.3 (+2.9)	△25.0 (△12.5)

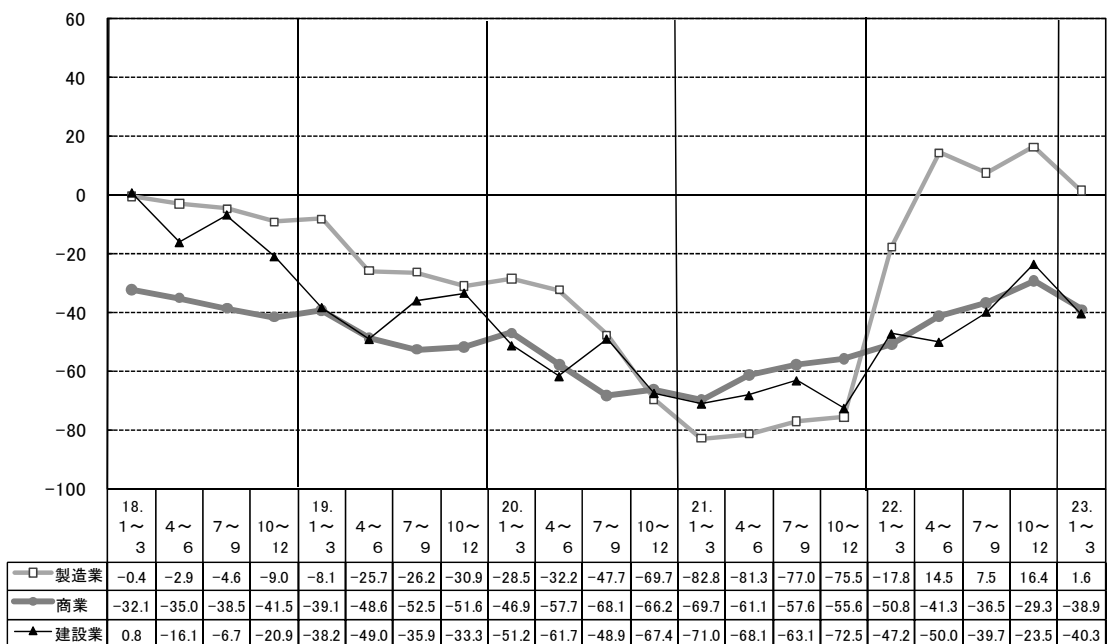
※()内の数字は今回調査「平成22年10～12期の現況」からの増減

- ・長期的（平成18年1～3月期以降）に見た趨勢では、全体では、平成21年1～3月期を底として、緩やかな持ち直し傾向を経て回復基調を辿ったが、平成22年7～9期以降、足踏み状態となっている。
- ・業種別DIの趨勢では、製造業は、平成22年10～12月期まではプラス基調が続くものの、先行きはやや弱含みでの推移が見込まれる。商業や建設業では、平成22年10～12月期までは緩やかな持ち直しの傾向にあったが、先行きは一服感がみられる。

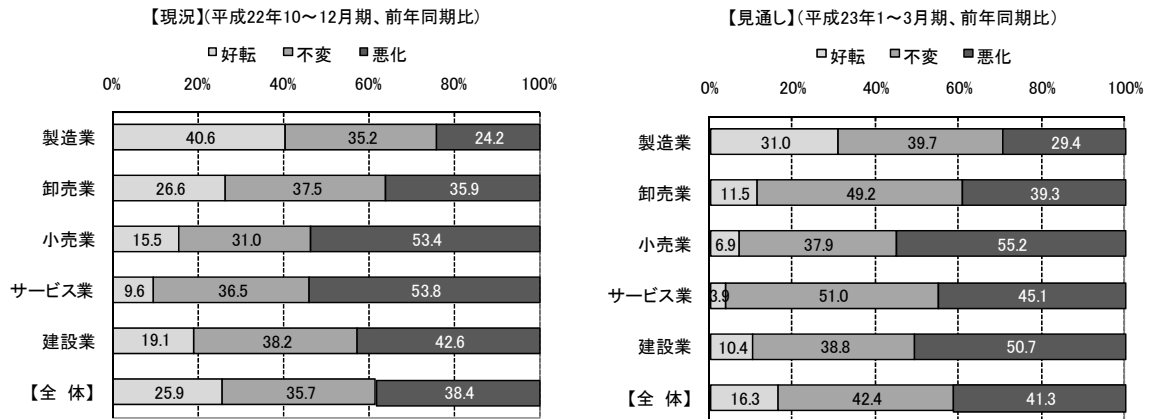
業況判断DI（前年同期比）の推移 <全体>



業況判断DI（前年同期比）の推移 <業種別>



- ・5業種別に業況判断の動向をみると、平成22年10～12月期において、「好転」の回答割合は、製造業が40.6%と他業種に比べ高く、前回(39.0%)とほぼ同水準。卸売業は26.6%と、前回(13.4%)より上昇した。一方、小売業・サービス業・建設業は、依然として2割を下回っており、業種間の格差が見られる。
- ・平成23年1～3月期見通しでは、5業種全てで、「好転」の回答割合が減少し、「不変」の回答割合が増加した。サービス業を除き、4業種で「悪化」の回答割合が増加しており、市内企業経営者には慎重な見方が広がっている。



- ・業種ごとの詳細は次の通り。(コメントの内容は前年同期比)

製造業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鋳鍛造品はプラス幅が大幅拡大。 ・ 一般機械、電気機械、精密機械で景況感が悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鋳鍛造品、金属製品、精密機械で悪化の見通し。
卸売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維品・衣服はマイナス幅がやや縮小。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食料・飲料でマイナス幅が縮小する見通し。
小売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猛暑効果や政策効果の反動減により百貨店・スーパー、自動車が大幅悪化。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車のマイナス基調が続く見通し。
サービス業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食店がマイナス幅を拡大。運輸はマイナスに転落。 ・ 旅館・ホテルはやや持ち直し。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食店・運輸ともマイナス基調が続く見通し。
建設業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全般的にマイナス基調続くが、土木などで若干改善がみられる。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合建設は再びマイナス幅が拡大する見通し。

※コメントは、回答企業数が概ね5先以上の業種を対象としている。

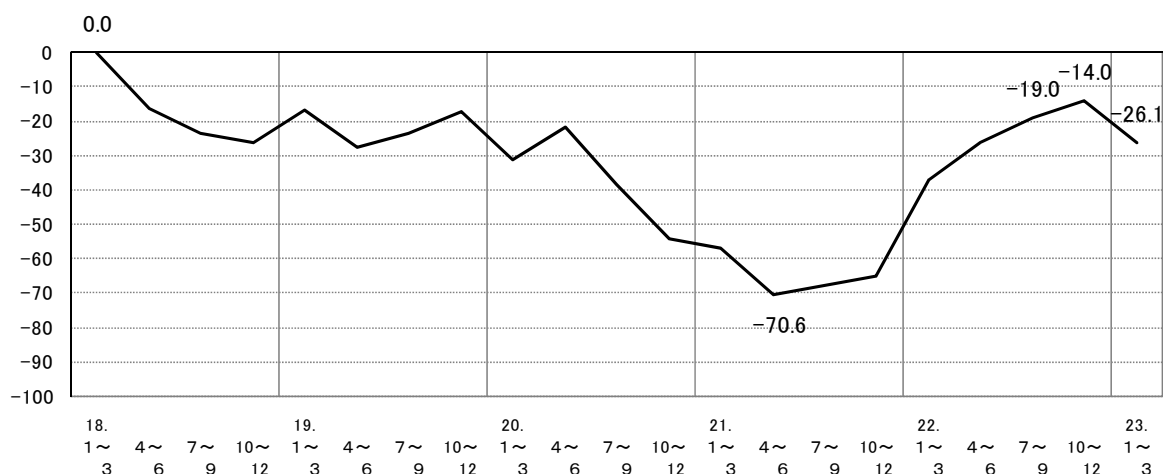
(2) 売上高の動向

- 平成22年10～12月期の売上高DI（前年同期比「増加」の割合－「減少」の割合）は全体で△14.0。平成22年7～9月期（△19.0）と比較して、マイナス幅が縮小した。
- 平成22年10～12月期の業種別DIは、製造業が15.1（前期比＋5.3ポイント）と3期連続でプラスとなった。他の4業種のDIは依然マイナス圏にあり、卸売業△7.8（同＋21.0ポイント）と建設業△30.3（同＋11.6ポイント）でマイナス幅が前期比縮小したものの、小売業△33.9（同△4.1ポイント）とサービス業△49.0（同△15.2ポイント）ではマイナス幅が前期比拡大した。
- 平成23年1～3月期の売上高DIは全体で△26.1。21年4～6月期から続いた上昇傾向から一転し、前期比△12.1ポイント低下する見通し。
- 平成23年1～3月期の業種別DIは、製造業は0.9（前期比△14.2ポイント）と低下するもののプラス基調を維持した。他の業種は引き続きマイナス圏で、サービス業は△49.0で前期比不変であるが、卸売業は△25.8（同△18.0ポイント）、小売業は△40.3（同△6.4ポイント）、建設業は△46.1（同△15.8ポイント）と前期に比べマイナス幅の拡大が見込まれている。

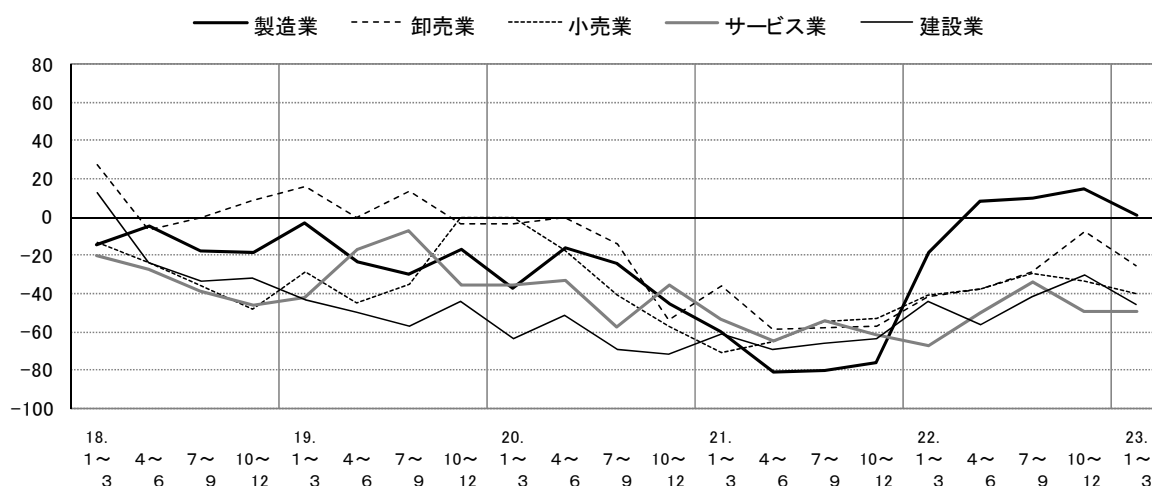
売上高の動向(前年同期比)

業種	現況（平成22年10～12月期）				見通し（平成23年1～3月期）			
	増加（%）	不変（%）	減少（%）	増加-減少（DI）	増加（%）	不変（%）	減少（%）	増加-減少（DI）
製造業	42.9	29.4	27.8	15.1	31.7	37.5	30.8	0.9
卸売業	31.3	29.7	39.1	△7.8	11.3	51.6	37.1	△25.8
小売業	20.3	25.4	54.2	△33.9	12.3	35.1	52.6	△40.3
サービス業	13.7	23.5	62.7	△49.0	4.1	42.9	53.1	△49.0
建設業	21.2	27.3	51.5	△30.3	15.4	23.1	61.5	△46.1
全体	29.2	27.6	43.2	△14.0	18.1	37.7	44.2	△26.1

売上高DI(前年同期比)の推移【全体】



業種別売上高DI(前年同期比)の推移



- ・ 業種ごとの詳細は次の通り。(コメントの内容は前年同期比)

製造業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鋳鍛造品はプラス幅を大幅拡大。 ・ 一般機械、電気機械、精密機械でプラス幅を縮小。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精密機械でマイナスに転落する見通し。
卸売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維品・衣服、食料・飲料は依然マイナス圏。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維品・衣服のマイナス幅が拡大する見通し。
小売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車は大幅に悪化しマイナスに転落。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車の大幅なマイナスが続く見通し。
サービス業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運輸がマイナスに転落。旅館・ホテルのマイナス幅が拡大。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運輸、旅館・ホテルともマイナス基調が続く見通し。
建設業	現況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合建設がプラスに回復。
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合建設で再びマイナスに転落する見通し。

※コメントは、回答企業数概ね5先以上の業種を対象としている。

(3) 設備投資の動向

- 平成22年10～12月期の設備投資は、全体では「実施しなかった」が73.5%（前回76.8%）を占め、依然として設備投資に慎重な先が多い。
業種別では、「実施しなかった」事業所は卸売業（84.4%）が8割を超えている。
- 平成22年10～12月期で設備投資を実施した事業所の投資内容は、「設備」、「車両運搬具」などが多い。特に、製造業で「設備」との回答が多い。
- 平成23年1～3月期は、設備投資を「計画していない」が全体で81.1%と、依然慎重な姿勢が続く見通しである。
業種別では、建設業（91.2%）で「計画していない」との回答割合が9割を超え、特に慎重な姿勢がみられる。
- 平成23年1～3月期に設備投資を計画している事業所では、投資内容は引き続き「設備」が多い。特に、製造業では設備投資予定企業の6割強が「設備」への投資を計画しており、平成22年10-12月期に引き続き多い。

【現況】平成22年10～12月期の設備投資

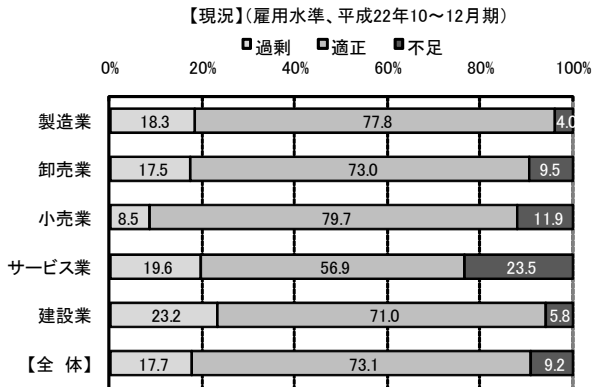
業種	実施した(%) 【()内は事業所数】	投資内容 (事業所数、複数回答)								実施しなかった(%)
		土地	建物	設備	車両運搬具	付帯施設	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	36.2 (46)	1	6	27	7	4	9	0	4	63.8
卸売業	15.6 (10)	2	0	2	4	1	1	0	2	84.4
小売業	24.1 (14)	0	4	2	6	2	3	0	1	75.9
サービス業	21.2 (11)	3	6	4	5	1	2	0	0	78.8
建設業	24.6 (17)	1	3	4	7	2	6	1	0	75.4
全体	26.5 (98)	7	19	39	29	10	21	1	7	73.5

【計画】平成23年1～3月期の設備投資

業種	計画している(%) 【()内は事業所数】	投資内容 (事業所数、複数回答)								計画していない(%)
		土地	建物	設備	車両運搬具	付帯設備	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	25.4 (32)	0	5	22	6	4	9	0	1	74.6
卸売業	17.5 (11)	0	1	0	3	2	3	0	2	82.5
小売業	20.7 (12)	0	2	3	6	3	3	0	0	79.3
サービス業	15.7 (8)	0	1	0	4	1	0	0	2	84.3
建設業	8.8 (6)	0	0	0	2	2	3	0	0	91.2
全体	18.9 (69)	0	9	25	21	12	18	0	5	81.1

(4) 雇用の動向

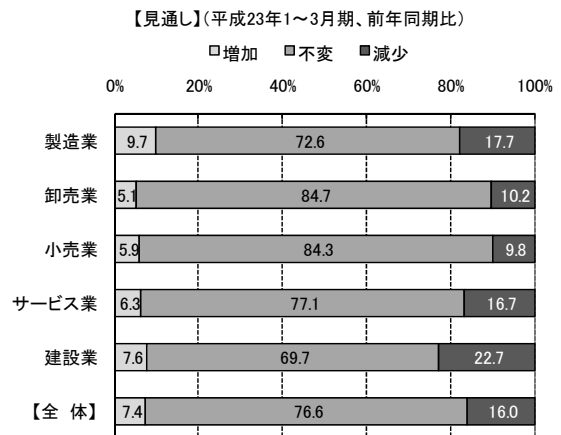
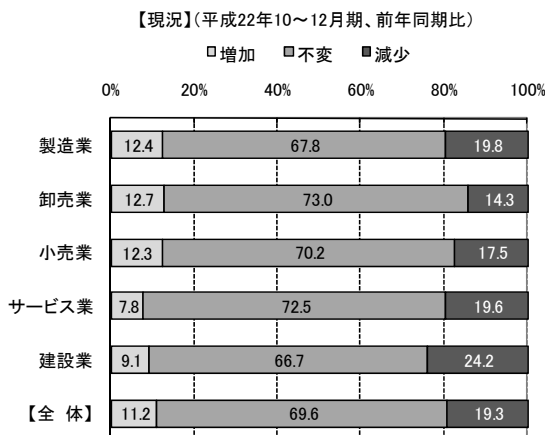
- 平成22年10～12月期の雇用水準は、全体では「過剰」17.7%（平成22年7～9月期20.4%）、「適正」73.1%（同70.0%）、「不足」9.2%（同9.6%）。D I（「過剰」の割合－「不足」の割合）は8.5と、平成22年7～9月期（10.8）に比べ2.3ポイント低下しており、雇用過剰感はやや薄らいでいる。業種別では、卸売業（平成22年7～9月期比△6.9ポイント）で過剰感がやや弱まった。また、サービス業、小売業のD Iはマイナスであり、雇用不足感がみられる。



雇用の動向

業種	現況DI (水準、平成22年10～12月期)	前回調査DI (水準、平成22年7～9月期)
製造業	14.3	15.1
卸売業	8.0	14.9
小売業	-3.4	2.8
サービス業	-3.9	4.5
建設業	17.4	12.0
全体	8.5	10.8

- 平成22年10～12月期の従業員数は、全体で「増加」11.2%（平成22年7～9月期10.2%）、「不変」69.6%（同71.6%）、「減少」19.3%（同18.2%）。D I（「増加」の割合－「減少」の割合）は△8.1と、平成22年7～9月期（△8.0）とほぼ横ばい。業種別では、建設業で「減少」（24.2%）が最も多い。
- 平成23年1～3月期の従業員数は、全体で前年同期比「増加」7.4%、「不変」76.6%、「減少」16.0%。D I（「増加」の割合－「減少」の割合）は△8.6と、先行きに大きな変化はみられない。



<障害者の雇用に関する調査>

(1) 障害者の雇用状況

【全体】

- ・回答があった373事業所の中で、障害者を雇用している事業所割合は12.3%で、前回の平成21年度調査(10.1%)より、2.2ポイント上昇した。
- ・身体障害、知的障害、精神障害別の内訳をみると、身体障害者を雇用している事業所割合は9.7%で、平成21年度調査(7.5%)より、2.2ポイント上昇。
知的障害者を雇用している事業所割合は3.8%で、平成21年度調査(2.6%)より、1.2ポイント上昇。
精神障害者を雇用している事業所割合は1.1%で、平成21年度調査(1.3%)より、0.2ポイント低下。
- ・雇用されている障害者数の合計は、回答事業所の雇用者数合計の0.59%であった。

●全体の障害者の雇用状況

		回答事業所数 (n=373)		従業員数 (n=24,136)	
		事業所数	割合	障害者の人数	割合
障害者を雇用している		46	12.3%	142	0.59%
障害の種類	身体障害	36	9.7%	106	0.44%
	知的障害	14	3.8%	29	0.12%
	精神障害	4	1.1%	7	0.03%

●前回調査(平成22年1月実施)

		回答事業所数 (n=464)		従業員数 (n=24,618)	
		事業所数	割合	障害者の人数	割合
障害者を雇用している		47	10.1%	118	0.48%
障害の種類	身体障害	35	7.5%	97	0.39%
	知的障害	12	2.6%	15	0.06%
	精神障害	6	1.3%	6	0.02%

【業種別】

- ・障害者を雇用している46事業所を業種別にみると、製造業(37.0%)が最も多く、卸売業(4.3%)、小売業(10.9%)が少なかった。

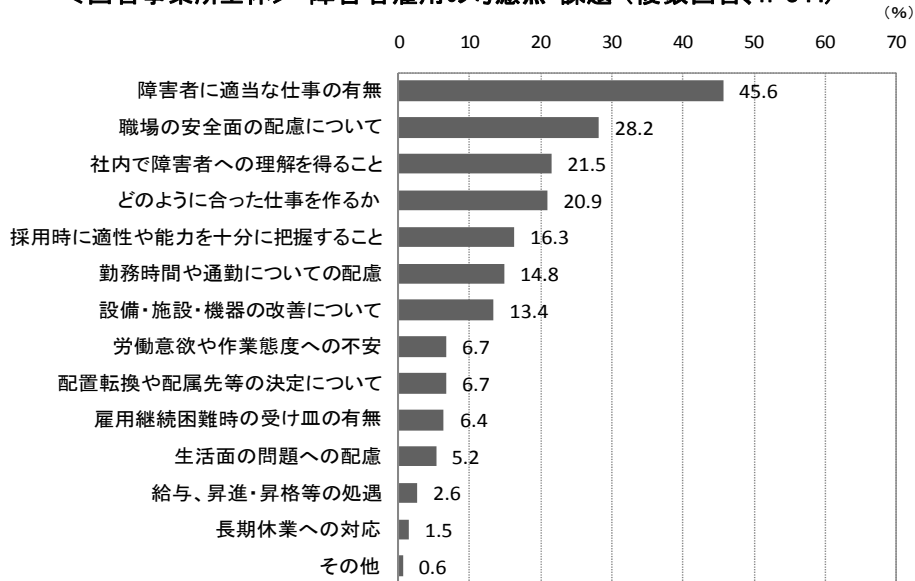
●業種別にみた障害者の雇用状況

	製造業 (n=129)	卸売業 (n=64)	小売業 (n=59)	サービス業 (n=52)	建設業 (n=69)	合計 (n=373)
事業所数	17	2	5	11	11	46
業種割合	37.0%	4.3%	10.9%	23.9%	23.9%	100.0%

(2) 障害者雇用の考慮点・課題

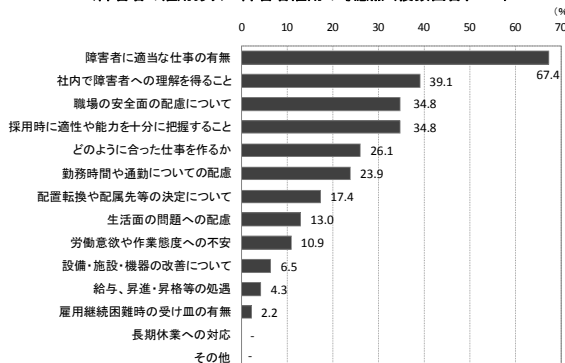
- ・ 障害者雇用の考慮点・課題は「障害者に適当な仕事の有無」(45.6%)が最も多く、次いで、「職場の安全面の配慮について」(28.2%)、「社内で障害者への理解を得ること」(21.5%)、「どのように合った仕事を作るか」(20.9%)などであった。
- ・ 「障害者に適当な仕事の有無」は製造業、サービス業、建設業で多く、「職場の安全面の配慮について」は建設業で多かった。

<回答事業所全体> 障害者雇用の考慮点・課題 (複数回答、n=344)



- ・ 障害者を雇用している事業所において、考慮していることとしては、「障害者に適当な仕事の有無」(67.4%)が最も多く、次いで、「社内で障害者への理解を得ること」(39.1%)、「職場の安全面の配慮について」(34.8%)、「採用時に適性や能力を十分に把握すること」(34.8%)などであった。
- ・ 障害者を雇用していない事業所において、今後雇用するとした場合の課題としては、「障害者に適当な仕事の有無」(42.3%)が最も多く、次いで、「職場の安全面の配慮について」(27.2%)、「どのように合った仕事を作るか」(19.8%)などであった。

<障害者の雇用あり> 障害者雇用の考慮点 (複数回答、n=46)



<障害者の雇用なし> 障害者雇用の課題 (複数回答、n=298)

